

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500639
法人名	医療法人 清樹会
事業所名	グループホーム 碧
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2 (電話) 088-693-4550

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月26日

【情報提供票より】(平成20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 鉄門 8人, 樹門 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費7,500円、その他実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		— 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・清水内科 ・徳島県立中央病院 ・東徳島病院 ・猪子歯科
---------	------------------------------

徳島県 グループホーム 碧 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ法人のデイサービスセンターの2階に、グループホームはある。静かな田園地帯で、大きく開かれた南の窓からは吉野川の土手が目の高さに望まれ、2階ということを感じさせない。玄関を出るとすぐ階段で、転落の危険があり、施錠されているが、大きく開かれた窓、建物の周りをコの字型に囲んだ広いベランダにより、開放感がある。共用空間には、応接セット・こたつが置かれ、大きなテレビを観たり話し合ったりと思い思いにくつろぐ利用者の姿がある。職員は優しく、さり気ない気配りをしながら支援をされている。利用者の表情には落ち着きと安らぎが見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「マニュアルへの緊急時の応急対応の記載」について、マニュアルは整備され、消防署の協力により勉強会を開くなど改善されている。「年間の研修計画の作成」は改善されている。「事故報告、ヒヤリハット報告の活用」については、転倒防止委員会を設け再発防止に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解し経営者・管理者・職員の全職員が時間をかけて話し合い作成している。評価の結果はミーティングで報告され改善に向けて具体案を検討し、サービス向上に向けての実践につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議は開催されている(平成19年度は6回開催)。会は、町担当職員・消防署職員・民生委員・地域包括支援センター職員・老人会・グループホーム利用者・家族・施設職員等のメンバーで構成され、グループホームからは現況報告をし、理解を深めていただくとともに、協力もお願いしている。消防署からは緊急対策についての助言をもらっている。話し合われた内容は、職員間で検討し共有され、サービスの向上と近隣地域への理解につなげている。議事録も整備されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関には意見箱が置かれ、外部相談苦情申立て機関の明示もされている。家族会や面会に来られた時等その都度近況報告をし、気軽に意見が言える雰囲気づくりができています。また、家族の意思・意見を確認し、介護計画に反映することで、支援に活かすことができています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の秋祭りには子ども神輿の来訪があった。また、クリスマス会は地域の子ども会が保護者と一緒に来られ、グループホームで利用者と一緒に楽しんだ。保護者が一緒に来訪されたことにより、地域の若い方々との交流が深まり、グループホームへの理解につながっている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔」をモットーに、常に笑顔を絶やさず、地域密着型サービスとしての和みのある家庭的なホームづくりを目指した理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等で理念や方針・目標を具体的に話し合い、管理者と職員は理念を共有し実践に活かしている。重要事項説明書に明示され本人・家族にも説明されており、グループホームの玄関にも掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の秋祭りには子ども神輿の来訪があったり、クリスマス会には子ども会が保護者の方々と一緒に参加し、交流が図られており、地域の方々のグループホームについての理解が深められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、自己評価・外部評価の意義を理解している。評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案を検討し実践につなげている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議(平成19年度は6回)は開催されている。町担当職員・消防署職員・民生委員・地域包括支援センター職員等の出席がある。検討された内容は全職員で話し合い共通理解をしてサービスの向上及び近隣地域の理解へとつなげている。議事録にも記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の利用状況報告やパンフレットを届けたりと交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会や家族の面会時にはその都度近況報告されている。碧からの便りも年3回発刊されており、家族との連携は密にとられ、家族の安心につなげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時等、気軽に意見を言える雰囲気づくりができています。また玄関に意見箱も置かれています。外部苦情申し立て機関も明示されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限におさえられ、利用者へ不安を与えないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は年間計画が立てられ活発に参加している。法人外の研修会にも職員は順次参加し、内容は、全職員に報告し、共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、地域のグループホームとの交流を持ち、相互のサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何回か見学に来てもらったり、体験入居したりして、グループホームに慣れ本人が納得された上での利用となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である。という考えをもってお互いを認めあい支えあって生活している。利用者から職員に対する感謝の言葉が聞かれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情・動作を注意深く観察し、意向の把握に努めている。難聴の方には、筆談で対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・意思が反映された介護計画になっている。介護計画作成及び見直し時は、家族に開示し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎見直しされている。必要に応じて適宜修正されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や状況に応じて、通院や外出など柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向・意見を尊重し、希望される医療機関への受診支援をしている。週1回かかりつけ医師の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向・意見を尊重し、希望される方への対応は職員間で話し合っている。終末期の看取りについての説明書及び同意書も用意され、ホームとしての基本方針が示されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりへの声かけ、対応はさり気なくプライバシーへの配慮が感じられる。プライバシーに関する研修もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、一人ひとりの体調・気持ちを考慮しながら入浴や散歩のタイミングを工夫する等の支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで個々の能力・したい事・できる事を把握し職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、さり気ない支援をしながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりにあった入浴支援がされているが、入浴時間が14時から16時と決められている。	○	入浴時間に関しての苦情は無いが、希望を聴き利用者の希望に添った柔軟な入浴支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味・特技を把握し、得意分野で力が発揮できるよう支援している。された事に対して職員は感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたり、買い物に行ったりと外出支援をしている。また、ドライブに出かけたり、花見に出かけたりと季節を感じる支援もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関を開けるとすぐ前が階段であるため転落の危険がある。転落防止のため玄関ドアは施錠されているが、ベランダに続く居間の南側の窓を広く開放し、閉塞感を感じず、自由に出入りできるよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。運営推進会議では地域の方々へ緊急時の応援を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士による指導を受けながら立てられている。一人ひとりの状態に応じた調理がなされ、食事摂取量・水分摂取量も把握され、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南は大きな窓があり、明るい日差しと吉野川の土手が目に入り季節を感じられる。壁面には手作りのカレンダー・見やすい時計・利用者の作品が飾られ、机の上には生け花・片隅には大きなテレビ・コタツ等が置かれテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだりとくつろげる空間となっている。居室の入り口には、一人ひとり好みの暖簾が掛けられ部屋間違いへの配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、その人らしい部屋作りができています。		